

従来型サブスクリプションモデルの転換の必要性

～Kit Oisix と SAKELIFE の比較事例研究～

1220436 織田英之助

指導教員 朝岡孝平

研究背景

近年、サブスクリプションモデルを利用したサービスが増加している。サブスクリプションモデルには新しいサブスクリプションモデルと従来型サブスクリプションがある。消費者意識と市場の変化により、従来型サブスクリプションモデルの生き残るのが厳しいの現状である。そこで従来型サブスクリプションモデルが現在や今後の市場でも適用できるように新しいやり方を考察する。

研究目的

本研究は、利用動向の高い食品宅配サービスを対象に従来型サブスクリプションモデルが転換すべき要素を分析する。その要素から、従来型サブスクリプションモデルが転換すべき要素について考察する。

調査・分析方法

調査方法は比較事例研究であり、調査対象事例は Kit Oisix と SAKELIFE とする。この2つの事例比較から、従来型サブスクリプションモデルの転換すべき要素を導出する。

分析結果

2つの事例の比較により2つの従来型サブスクリプションモデルの転換すべき要素を発見した。第1にサービスのアップデートである。第2に独自性である。サービスのアップデートでは Kit Oisix が実践しており、SAKELIFE は実践できていない。独自性については Kit Oisix にはあり、SAKELIFE には見られなかった。

考察・結論

従来型サブスクリプションモデルの転換すべき要素がサービスのアップデートと独自性である。この2つの要素を従来型サブスクリプションモデルに取り入れることで、現在や今後の市場でも従来型サブスクリプションモデルは生き残ると考えられる。